

4. 中国の医療機関との海外遠隔セカンドオピニオン・症例検討会確立事業

国立研究開発法人 国立国際医療研究センター（NCGM）

【現地の状況やニーズなどの背景情報】

日本の多くの医療機関で、セカンドオピニオンや症例検討会は行われている。中国でも同様に行われているが、両国間での遠隔セカンドオピニオンや遠隔症例検討会は頻繁には行われていない。

これまで、NCGMは、MOUを結んでいる清華大学、北京大学とは、症例カンファレンスをこれまでに実施しているが、セカンドオピニオンはまだ実施していない。

当院では、中国から日本の医療を受けるための患者が多かったが、現在のコロナ禍で、患者が来日することは困難な状況である。そのような中、中国の患者や仲介者、医療機関より、日本での医療の相談や、治療薬の問い合わせなどがあり、遠隔でセカンドオピニオンや症例検討会を実施する必要性が増してきた。

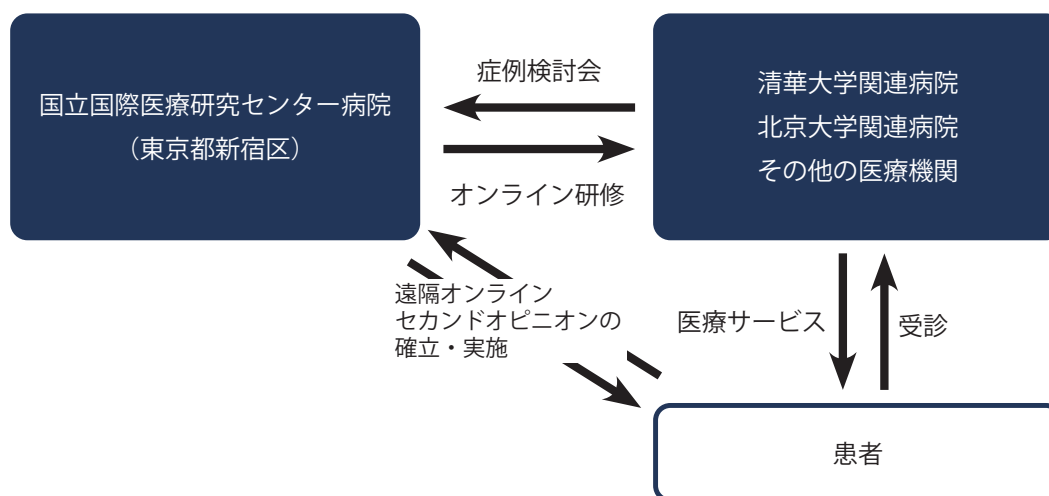
がん治療に関して25の研究のシステミックレビューでは、セカンドオピニオンによって異なる診断、治療の割合は2%から51%の範囲であったことから、セカンドオピニオンを行うことの重要が示されている（Patient-Driven Second Opinions in Oncology: A Systematic Review. Hillen MA, et al. Oncologist. 2017 Oct;22(10):1197-1211）。

【事業の目的】

NCGMがMOUを結んでいる清華大学や北京大学の大学病院、及び、中国全土の医療機関を対象に、日本と中国間のセカンドオピニオン・症例検討会を確立するための研修を実施する。その結果、NCGMと遠隔セカンドオピニオン・症例検討会を実施する。セカンドオピニオン・症例検討会を実施することで、短期的には両医療機関の医療レベルの向上、中期的には日本へのインバウンド増加、長期的には中国の医療サービスにおける診断、治療の改善、医療費削減に貢献する。

【研修目標】

1. オンライン研修参加者（アウトプット）
 - ・ 研修修了時の受講者数：30名
 - ・ NCGMとセカンドオピニオン・症例検討会に関して協力機関となる数：3機関
2. 遠隔セカンドオピニオン・症例検討会の実践（アウトカム）
 - ・ 実際にNCGMと遠隔セカンドオピニオン・症例検討会が行われた回数：3回



「中国の医療機関との海外遠隔セカンドオピニオン・症例検討会確立事業」は、2020年10月～2021年2月まで、NCGM 国際診療部が実施主体として行われた。セカンドオピニオンは通常、患者が病院に来て直接医師と相談をする形式が主であり、オンラインを用いて行うことはあまり想定されていなかった。しかしながら、2020年のコロナ禍において、国内の患者が病院に来ること自体に制限も出始め、外国人患者は来日することは困難となり、新たに海外遠隔セカンドオピニオンを行うことは必要であった。症例検討会は、通常、病院内で行われることはあっても、病院を超えて、また、国を超えて行われることは、技術的には可能でも、頻繁に行われるものではない。日本の医療技術を広げると共に、日中の医療技術を向上するためにも症例検討会は必要である。

1年間の事業内容											
2020年	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	
研修内容 遠隔システムを用いたセミナー						10/11 参加者 3200人	11/8 参加者 800人	12/12 参加者 1260人			
海外遠隔セカンドオピニオン							1回目			2回目 3回目	



中国医療機関とのセミナーでは、話題は消化器癌で特に肝臓がんの日中の治療方法の相違を議論し、消化器腫瘍診断における画像診断に関するガイドラインや日本のチーム医療の紹介に関して紹介を行い、症例検討を行った。個別の対応として当院では海外遠隔セカンドオピニオンで対応できることを説明した。

セミナーでのNCGMセンター病院の紹介

- ◆ 国立国際医療研究センター/中心病院・国際医療部
National Center for Global Health and Medicine Center Hospital
International Health Care Center
- ◆ 中日医学绿色通道/China-Japan Medical Green Channel
2020年主要方針：強化と展開中日国際医療交流的工作
基于至今开展的工作，2020年主要目标定位在网络平台的建设与强化。
主要方面：
 - ◆ 推动和落实医护人员/医疗中作人员的交流、个案讨论、专家会诊等的开展。
 - ◆ 推动和落实来日医疗咨询的网络平台业务的开展。
 - ◆ 推动和加强中日之间网络平台第二医疗意见的开展。
 - ◆ 推动和加强中日医生、健康管理人员合作等业务的开展。
- ◆ 総合窓口
E-mail : support@hosp.ncgm.go.jp
電話 : +81-3-6228-0749
传真 : +81-3-6228-0738

また、オンラインセミナーでは、NCGM センター病院の紹介を行った。日中の国際医療交流の強化・発展として、2020年の主な目標は、ネットワークプラットフォームの構築と強化とした。具体的に、中国に対して実施できる医療協力を4点提示した。①医療従事者の交流、症例検討、専門家相談、②医療相談のためのWebベースのプラットフォーム開発

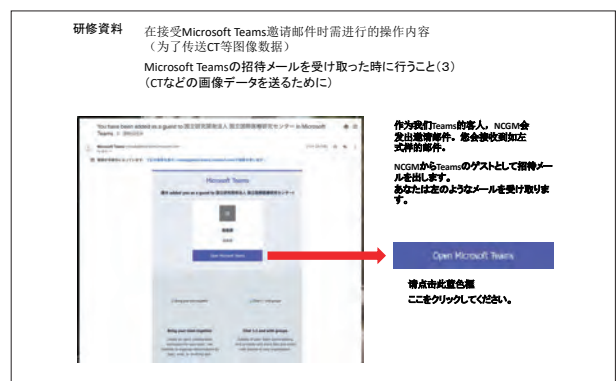
の推進、③国際的なネットワーク・プラットフォーム上でのセカンドオピニオンを開発・促進、④日本における健診・健康経営相談連携の発展を促進・強化、尚、これらの窓口は、国際診療部が行うことを示した。



オンラインでセカンドオピニオンを行うためには、Microsoft Office 365 Teams を使うことが当院では求められたため、中国の患者さんが Teams を用いることができるようなマニュアルを作成した。また、日本から招待メールを送り、中国で患者さんがそのメールを受取った場合、日本語表記で示されることが考えられたため、中国語翻訳を行った。Microsoft Teams が中国で使うことができるかは不明であったが、実際には用いることができた。



当初は、Teams を用いる際に、患者さんは、Microsoft Teams のソフトをダウンロードすることが必要だと思われ、そのダウンロードの説明も行っていたが、実際には、必ずしもダウンロードをしなくてもよく、Teams を用いることができたため、上記の図の説明を加えた。



セカンドオピニオンを行う際に、CT、MRI、PET など、患者の画像情報が必要な場合がある。電子メールの添付書類では送付することができない場合には、Microsoft の Teams を用いて、画像情報をファイルに共有することにした。そのためには、上記の様に、中国語の翻訳をしたマニュアルを作成した。

今年度の成果指標とその結果

	アウトプット指標	アウトカム指標	インパクト指標
実施前の計画 (具体的な数値を記載)	①研修修了時の受講者数:30名 ②NCGMとセカンドオピニオン・症例検討会に関して協力機関となる数:3機関	①実際にNCGMと遠隔セカンドオピニオン・症例検討会が行われた回数:3回	①研修を行った医療機関において、セカンドオピニオン・症例検討会が行われ、実施内容がその医療機関のWeb siteに掲載される。
実施後の結果 (具体的な数値を記載)	①研修受講者数 オンラインのセミナー 計5,520人 ②協力機関:1機関	①遠隔セカンドオピニオン 3回 症例検討会 3回	①なし

9

アウトプット指標は、オンラインセミナーでは、参加者数を事前に把握することは困難であったこと、また、今回は予想外の多くの参加者があったため、①研修受講者数は、5,520人の参加となった。また、本事業の協力機関は1機関であった。アウトカム指標として、オンライン

での遠隔セカンドオピニオンは3回、症例検討会は3回実施した。インパクト指標として、セカンドオピニオンや症例検討会が行われ、その実施内容が医療機関のWeb siteに掲載されたものはなかった。

今年度の相手国への事業インパクト

医療技術・機器の国際展開における事業インパクト

● 海外遠隔セカンドオピニオンの導入

これまで中国人患者が日本の医療機関でセカンドオピニオンを受ける場合は、来日して行われてきた。本事業を通して海外遠隔セカンドオピニオンが実施されたことで、来日する必要はなくなった。

2020年は、コロナウイルス対応のため、入国制限が実施され、中国と日本との間も通常の往来が困難になった。よって、渡航の必要がない海外遠隔セカンドオピニオンが実施されることで、今後、海外からセカンドオピニオンを受ける方法がオンラインで行われる可能性が高くなった。

健康向上における事業インパクト

- 事業で育成した保健医療従事者(延べ数)
- 遠隔システムを用いた講義・実習・セミナーを受けた研修生の合計数:5,520名
- 期待される事業の裨益人口(延べ数):不明

これまでの成果

- ・中国の患者さんに対して、Microsoft Office 365のTeamsを用いて海外遠隔セカンドオピニオンが実施可能であることが判明した。
- ・実際にこのセカンドオピニオンを3ケース実施した。
- ・今後、オンラインでセカンドオピニオンを実施するためには、患者のCT・MRI・PETなどの画像検査結果が必要な場合がある。しかしながら、これらの画像データは容量が大きいため、メールに添付はできない場合が多い。情報の安全性を確保しながら、患者さんが送付するための方法を確立した。

今後の課題

- ・オンラインでのセカンドオピニオンのケース数を増加するためには、中国の医療機関や医療渡航支援企業との協力関係を強化する必要がある。
- ・患者さんが安心して、また、容易にデータを送ることができる方法とそのためマニュアル作りが必要である。

将来の事業計画

事業の持続可能性については、特に、がんの診断、治療の分野は、海外遠隔セカンドオピニオン・症例検討会の重要性が理解されやすい分野である。

具体的には、①海外遠隔セカンドオピニオン実施→②日本での治療希望者の増加→③日本での受診と治療→④中国へ帰国後、医療機関でフォローアップ→⑤ケースによっては症例検討会の実施、が考えられる。

展開可能性については、中国の医療機関が日本との症例検討会が有用であると認識をすることで、日本とのオンラインによる症例検討会が展開すると考えられる。